

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	第7回福津市共働推進会議
開催日時	令和5年4月28日（金）午後2時00分から午後3時30まで
開催場所	福津市役所 本館2階大会議室
委員名	（1）出席委員 嶋田 暁文、依田 浩敏、奥 弘子、小林 真理、富松 享一、中川 孝晃、三ッ橋美津子、山田 雄三 （2）欠席委員 山口 覚
所管課職員職氏名	市民共働部長 香田 知樹 市民共働部地域コミュニティ課長 石井 啓雅 地域コミュニティ課市民共働推進係長 井上 真智子 地域コミュニティ課郷づくり支援係長 向井 恭子 地域コミュニティ課郷づくり支援係 折居 鈴香
議 題 （内 容）	・ 地域視察後の論点整理 ・ 今後の審議スケジュール
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
非公開の理由	
傍聴者の数	3名
資料の名称	・ 次第 ・ 資料1 郷づくり地域別ヒアリング整理表 ・ 資料2 今後の審議スケジュール（当日配布）
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録
	記録内容の確認方法 委員による確認
その他の必要事項	

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 会長あいさつ

本日はお忙しい中お集まりくださり感謝申し上げます。いよいよ議論の佳境に入りつつあるということで、これまで行ってきた地域視察を受け止め、論点として抽出していくことになる。ぜひ今回もご意見を賜ればと思っている。それではまず事務局の方から資料を含めてこちらの説明をお願いしたい。

2. 地域視察後の論点整理

事務局

資料1を基に説明。

前回3月22日の会議の中で、事務局の1つの案として整理表をお示ししており、そこで皆さんからご意見やアドバイスをいただいた上で、今回正式にこの資料1という整理表を作って配布させていただいているところである。基本的には地域の皆さんからいただいた声を、できるだけ忠実に示すために、ありのままの表現で順番に表に落としているような状態であり、視察での質問や事前ヒアリングでの質問ごとに、協議会からいただいた回答や意見についてそのまま写している。

整理表は、今日皆さんに確認をしていただいて修正等も加え、今後は地域の方に表を確認していただき、言い足りなかったこと等を加えていただき完成させたいと考えている。

会長

以上の説明に対する質問等あればお願いしたい。

1点伺いたいののが、複数に割り振ってあるのかもしれないが、行政のバックアップがほしいとか、活動において何をどうしていいかわからないというような部分については、活動の部分と市政の部分と両方に該当する気がするが、そのように整理されているという認識でよいか。

事務局

事務局目線でそういう場合は併記しているが、併記ができていないものなどで、もしお気づきの点があれば教えていただければと思う。

会長

特に地域担当職員に関してどっちに入っているのか気になった。

分量がかなり多いため、作業の進め方として、追加分を別個に分けていただければ、一旦我々もこちらを一通り見て、追加で出てきた部分だけ再度チェックするという方向でもいいのかもしれない。

期限を定めなければ、「見てコメントください」と言うのはなかなか難しい。スケジュール感としては、今後2週間くらいの時間の中で、皆さんにご覧いただく形で対応していただければと思う。

これについて特になければ、続けて次の説明に移るがよろしいか。

委員一同
問題ない。

事務局

論点整理について説明する。

第6回会議の8地域視察後の振り返りの話や、その後4月初旬の正副会長と事務局の方で打ち合わせをさせていただいた結果も踏まえ、整理表のカテゴリーをもとに論点を確認していこうと考えている。郷づくりを進める上での不便性や困っていることをどう解消していくかという目線で見たと時の答申の柱として、交付金、拠点、人財というテーマが挙がっていたと思う。これは整理表でいうとE列の分野の中で、交付金、拠点、人財にあたる。実際その柱をもとに答申につなげていく項目としては、D列の中でいうと問題、展望（希望）、要望（意見）というところが主になると思われ、これらを軸に柱ごとに提案内容をまとめていってはどうかと考えている。

提案と分けてまとめた方がいいのではないかという内容として出てきているのが、委員の皆さんが視察や会議の中でコメントや感想、郷づくりの活動上の成果、これまで頑張ってきたこと、あとは市政への意見などである。こちらは提案とは分けた形でまとめていってはどうかと考えている。

会長

確認だが、交付金、拠点、人財、これは以前私が申し上げたと思うが、答申につなげる項目として問題、展望、要望ということは出てきたか。

事務局

4月の正副会長と打ち合わせをさせていただいた時に出てきていたかと思うが、皆さんの意見も聞きながらそこは変わっても問題ないと思う。

会長

その場でそういった議論があったということなのでここに挙げていただいたということだが、こういった答申の柱のあり方や答申につなげる項目、こういった部分の全体の構成、これも含めて皆様からご意見を賜れればと思っている。

振り返りのときの議事録の私のコメントで、1本目は自由度を高めていくこと、2本目は市の関わりをどのようにしていくかということ、3本目は人財・なり手確保への対応、これを3本として言っており、それ以前も今回まとめていただいたとおりの交付金・拠点・人財という言い方をしていたけれども、総合して考えると、交付金・拠点・人財・市の関わりという4本くらいが実はいいのではないかと考えている。基本的には自由度を高めていくという理念の基に全体をまとめていく。

ただ、ヒアリングを通して明らかになったとおりの、市としても自由にやってくださいと言いながら過剰な関与をしていたり、逆にここはもっと市に関与してほしいと現場が思っているがそこを放任していたりする。その部分の矛盾を解決していくというのがもう一つの基本的な発想になるのではないかと考えている。私の意見としては、柱の市の関わりの部分で、特に地域担

当職員制度を中心としながら、市のバックアップ体制、フォローの在り方のようなのをもう1つ加えてみてはどうかと思っている。

また、答申につなげる項目という言い方が、今一つどういう意味合いなのか分かりにくい感じがするがここはどういう意味か。

事務局

拾っていくものとして、問題、展望、要望について今後どうしたらいいかというのを提案していくことで、郷づくりの制度がよりスムーズになっていくのではないかという意味での問題、展望、要望である。

会長

それであればよくわかった。我々が今日出された回答、意見の方を見させていただき、そこで指摘されている問題点、展望、要望に着目して、それをどう具体的に提案につなげていくのかを考えていく。「答申につなげる項目」というのは、「入れ込むべきポイント」ということで理解すればよいだろう。

頑張っているということ正面から我々も言いたいところもあるが、そういうことまで答申に入れるとなると、分厚くなってしまい、答申としての趣旨が不明確になってしまう。そのため、答申はあくまで具体的な問題点をどう変えていくのか、新しい郷づくりのあり方をどういう風に展開していくのか、という部分に焦点を絞ってまとめたい。その上で、せっかくだいた成果の部分については別途取りまとめ、例えば国の内閣府などが取りまとめている先進的な取り組み事例集のような形で示すことにより横展開を促していくとか、あるいは今回答申に添付する形で、我々1人1人の委員がどう感じたかというのを残すという方法も考えられる。あまり形にこだわる必要はなく、地域で頑張っている方々に熱いエールを送るという趣旨でそういったことをやってもいいのではないかという気もしている。それも含めて皆さんからのご意見が賜れたらと思うがいかがか。

副会長

4つの柱、交付金、拠点、人財、市の関わりについて表の方にはたくさんコメントが書いてあったが、共通のキーワード的なものを1回抜き出してみるといいのではないか。いくつもの協議会の中で出てきている共通のキーワードがあると思うので、その辺を見てみるといいのではないか。

会長

私も補足させていただくと、共通する部分を抽出すると同時に、一つの型にはめず、いくつかの型で抽出したい。自治会と郷づくり推進協議会との関係性も一様ではなく、かなり多様だと感じた。前回も申し上げたけれども、自治会が疲弊してくる中で自治会をカバーしていくような、自治会活動の延長線上として郷づくり推進協議会を構想しているところもある。他方で、自治会とはやはり性質として違い、むしろいろいろな地域でチャレンジしたい若者や団体と結びつきながら、そこをバックアップしていく、そしてプラスアルファで、自治会がしにくくなってきていることをお手伝いするイメージ

のところなど、いろいろあるなと感じた。そのため、多様性を損なうことなく自由度を高めていけたらと思う。

しかし繰り返しになるが、協議会の中には、何をしたいのか分からないというところもあるようなので、地域担当職員制度、アンケート、あるいは講座研修の機会を設けるなどの市のバックアップがないと、いろんな選択肢があっても認識できず、選べないというところがあるため、そこを考えていきたいと思う。また、キーワード的な共通のものに着目していくというのはいいアイデアだと思う。

委員

ヒアリング整理表にこれだけ丁寧に聞き取った結果を入れていただいて大変だっただろうと思うが、この資料では訪問順、地域順、それからその中に性質や分野など、順番がない状態に出ているため、できれば分野別などでソートをかけた整理表にしてもらったら、この中でも郷づくりでほとんど似通っているような問題もあると思うため、そこである程度消し込んで整理して見た方がわかりやすいのではないかなと思う。また、会長たちがこれからやり方を進めていかれるのだと思うが、できたら柱と言われている交付金、拠点、人財、市の関わりとかも、同時にこの課題で話すのではなく、今回は交付金についてなどという感じで議論していった方が整理しやすいのではないかな。

確かにこの4本は私のような郷づくりの人間から見ても非常に大切な柱だというのは納得できるが、進めるときに絞った形の議論の方が進めやすいのではないかなと思う。ワークショップで進めていくというのもいいと思う。

会長

大変的確なご意見であった。まずは資料1についてソートをかけていただき、見やすい形で作業ができるような資料にさせていただきたいという点と、今後の進め方について4本プラスその他くらの感じで順番に進めていくのはどうかという点だが、後者については、スケジュールとの関係でそれが可能かどうかは問題だと思われる。事務局にお聞きしたいが、この点はどうか。

事務局

資料2を基に審議スケジュールを説明。

令和5年度は全8回の開催を予定している。諮問1については年度の途中になるが、中間答申という形で先にいただければと考えている。

会長

諮問1を中間答申で出す趣旨というのは、実際に予算に反映したいということではどうか。

事務局

おっしゃる通り。

会長

できることから予算に反映して実行に移したいという趣旨でこのようなスケジュールを考えられたと伺っている。それも1つの考え方だと思う。できることはできる限り早い段階から予算に反映する、そのためには答申案を早く出す必要性があるということである。

その場合、まちづくり基本条例の見直しの議論には早めに入っていく必要があるわけだが、もし見直しの必要性がないということであるならば、せっかく審議の回数を確保していただいたのに、もったいないということになる。また、郷づくりについて内容をもっとじっくり詰めてもいいのではないかという感じも持つ。

そこで、両者の折衷案として、場合によっては答申案を「中間答申」あるいは「中間報告」という形で、答申の前に出し、それを予算要求の根拠としていってはどうか。その上で、答申はもう少し細部について詰めていくという方向もあり得るのではないか。

結構詰めなければいけない部分もあるのであり、そこも含めて早めに答申に出すとなると、逆に実行可能性が低下してしまう可能性もあるという点が心配である。また、生煮えの議論を持っていたときに財政部局に対して説明がつきにくいという部分があると思う。

とりあえず予算化がすぐできるような案件については、中間報告で「これだけは確定したので」という形で出し、それ以外にもこういったことを検討している、それについては答申で詰めていこうとしているというスタンスでいくのはどうか。そのようにできるならば両方のいいとこ取りができるのではないかという気がする。答申自体はもう少し先延ばしにするというのはいかがか。

委員

先のゴールから考えた方がいいのではないかと思う。答申を出した後の動きに関しての確認だが、答申を出した後再度市で受け取った上で、具体的に長期的に整備していく必要が出てくると思うが、答申を受けて実行プランを改めて策定してから、何年にどういったことを整備するなど、そこまで具体的に実行プランを作るという前提なのかどうなのかという予定を聞かせていただきたい。

事務局

今のところの事務局側の考え方であるが、市の対応方針も答申をいただいてからじっくり練って対策を打つというのが一番いいとは考えている。一方で問題というのはすでにはっきり出ている部分も現状あるため、予算化が伴うものは、できるだけ早く着手していきたいというのが本音である。答申を固めていく段階で委員の皆さんからの意見というのは当然事務局も伺いながら進めるため、その間ですでに実際に課題対策が出せそうなものから並行しながら着手できたらというふうにも考えている。そのため、財政部局の方に予算を要望しなければいけないようなものに関しては、先ほどから会長が言われるように裏付けが必要になってくる。その際に市としては担当課がこう思っているというだけでなく、しっかり審議会の方からもこういった意見が

実際にあるということをお願いした上で、可能なら答申が一番よいが、もし難しいということであれば、先ほど会長がご提案いただいたような中間報告といったものがあれば、より説明がしやすいということになってくるかと思う。

今は4本柱ということで挙がっているものに関して委員の方からは1個1個分けて詰めていくという場も必要なのではないかというご提案をいただいたため、例えば特に予算に関わるような交付金や拠点などそういったテーマを先に少し詰めさせていただき、時間をかけて全体にいくなどいろんな方法があるのではないかと今聞きながら思っていたところである。いずれにしても一度諮問1を完全に出してしまい次は諮問2だけになってしまうと、また前後してしまうという場合があるため、やはり並行して進めるという意味では、答申を完全に1でいただくというよりは、一旦報告を中間でいただくという方でいけると、並行した取り組みも可能になるのではないかと感じた。もともと並行してやろうという考えは持っていたというのが結論である。

会長

委員からのご指摘は、私どもが答申をした後それが実行に移されていく中で、我々は全くノータッチでいいのかどうかということであった。まさにおっしゃる通りで、答申の中にぜひ入れ込みたいことの1つが、行政に具体的な推進プランを作っていただき、それを進行チェックする委員会を設けていただきたいということである。そのメンバーが我々と一致するかどうかは別として、そういったフォロー体制をしっかりと整えていくということが大事なのではないかと思う。議会の中でも関心を持たれている方もいらっしゃると思われる。場合によっては議会に進捗状況を報告していくというやり方も考えられる。いずれにせよ、今回の改革の流れがこれで終わりとなるのではなく、継続的に進捗をフォローしていくような体制をとってほしいという趣旨の文言を入れこむというのは必要だと思う。

審議スケジュールについては、まず整理表の確認ということであるが、整理表を事務局の方でソートして見やすくしていただき、それを私共に送っていただいてから2週間程度で、ここはぜひ答申に入れてほしいという点や、ご要望をまず委員から出していただく。それを再度事務局で整理していただく。その上で、原案的なものをどう整理していくのかを正副会長と事務局で議論させていただき、それをもとに原案を作っていただく。それをまた正副会長で見せていただき手直し等をさせていただきながら、答申案にまとめていく。それをもとにして、特に交付金など予算に最も関係し関心が大きい部分について、ワークショップで議論し、よりよいものに仕上げていく。委員のイメージでは、このワークショップは、私共も入った上で地域の方とともに議論をするというイメージか。

委員

まずは論点整理した資料をいただき、その意見が出て正副会長と事務局である程度固めた内容で、一度委員の中で議論をさせていただけたらと思う。

会長

6月9日に地域と対話を持つと書いてあるが、一旦審議会で議論する。その上で地域の方々と7月14日の審議会で地域の方々との対話の機会を設けるという感じであろうか。それを踏まえ若干の修正等を施し、それをもう一度地域の方と委員の皆さんに見ていただく。事務局にはお手数かけるが、送付されるだけだとなかなか分からないと思うため、送付いただいた上で、こういった部分が変わっているなど、個別に電話等で説明をしていただければいいと思う。そして皆さんの了承を得た上で9月22日の段階で、中間報告を確定というように調整させていただければと思う。予算の要望は市だと10月くらいであったか。

事務局

予算自体は段階があり、7月に実施計画という計画を出し、その手順で認められれば10月に予算要望という手順である。ただ原則はそうであるが、相談によっては実施計画というもので仮のものを一旦は説明をさせていただき、実際に詰めた後にまた再度説明をさせていただいてから予算要望といった手順など、いろんな相談というのはあるのではないかと思うが、原則は7月に計画を出して10月に要望という2段階が原則である。

会長

ぜひそのような形をとっていただければと思う。予算に反映できれば、地域の方々からも変わっていく感じが感じ取られると思う。そうすると、答申に向けて気持ちとしても高まっていくので、良いのではないかと考えている。基本的には、今申し上げたような流れで、スケジュールを1個ずつずらしていくようなイメージでよいか。7月14日にずれてくる地域との対話の場をどのような設計でやっていくのかについては、もう少し詰めていく必要がある。時間を取らないと2時間とかでは収まらないと思われるため、時間をもう少しとる必要性もあると思われるが、そのような方向でよろしいか。

委員一同

異議なし。

会長

その他何かご意見があればお願いしたい。

事務局

事務局から補足させていただく。先程会長から答申をいただいた後に市のほうで実行計画を作り、その後点検をいただく委員会のようなものがあるのではなかろうかというお話をいただいたが、市としてはこの共働推進会議自体は、皆さんの任期は2年ということで今年度までということになっているが、共働推進会議をそれで休止するわけではなく、これは当然予算が伴うため予算が認められればということにはなるが、令和5年度に限らず令和6年度以降も基本的には常設で審議会を置かせていただくような計画はある。開催頻度は当然下がってくるが、その場で点検というような機会は、当然市としても考えているため、別途立てるというよりは、恐らくこの審議会が引き

続き常設で残るというイメージで捉えていただければと思っている。

会長

予算の関係でいくと、中間報告の中で、引き続き進行チェックしていきたいというようなことを書き込んでおくことが大事かもしれない。

委員

先程の話に戻るが、市の方で論点整理をしていただき2週間でチェックという内容であったが、論点整理は問題点や展望要望というD列をメインに考えるということか。

会長

おっしゃる通り。答申の中に盛り込んでいくべき論点を抽出していただくために着目いただくのが、問題などとして位置づけられている内容である。ぜひこれは入りたいというものを挙げていただければと思う。もちろんこの論点整理表から漏れ落ちていることや、「あの話が抜けているのではないか」というようなものがあれば、追加で提案していただいてもよい。

委員

気になっている点としては、交付金とか拠点の話全体を通して、自由度をもっと高めましょうという話だと思っており、決め方の後の話になってしまうが、どれくらいが適切なのかといった軸が、私の中で基準が分からないため、そういうのをどう判断していくのだろうというのが少し気になる。

会長

答申の文言をどの程度具体的に細かく書くかということにも絡んでくると思う。あまり細かく書いてしまうと行政としては動きにくい部分が出てくるので、ある程度抽象的な文言にならざるを得ないのかなと思う。ただ「どうしても」という部分は、かなり強い書き方をすることによって、その裁量の幅を狭めるということも必要である。具体的に言うと、例えばこの交付金の在り方については、自治会数によって金額が決まっており不平等だという指摘があった。そういった指摘は確かに真っ当だと思うので、そこは公平性が担保できるような交付金の在り方及び増額の部分で、活動に対して不足するようなことがないような交付金にすべきなどと明確に記述する。そういうメリハリをするというのが基本的な線ではないかという感じがする。

今一度整理すると、例外的に、具体的な数値に踏み込む場面もあるかもしれないが、基本的にあまり数値の細かいことは書かないと思われる。

他方で、あまり抽象的に書き過ぎてしまうと、骨抜きになってしまうし、庁内におけるやり取りの中で力にならない。逆に、具体的にガチっと書き込むことで、「このように言われているから仕方ない。わかって欲しい」というような説得が可能になる。つまり、ある意味私どもが言い訳の根拠になる。そのため、ある程度強硬な書き方をしなければいけない場面もあり、そのメリハリが重要である。

もっとも、交付金を改革する場合、団体によっては、改革により逆に損をしてしまうところが出てくる可能性もある。その場合、当該団体からは反対

意見が出てくるであろう。そのように、意見が分かれてしまうような部分については、強硬な書き方をしようと思っても難しい。

委員

先程会長が言われていた他都市の事例であるが、今回答申にどこまでしっかりと調査して入れていくのか、次の段階なのかにもよるのかと思うが、やはり我々としてはこうした方がいいのではないかと、しかし行政としては変えられないのではないかと、けれど他の地域では実は実現できているといった、何か他都市事例のようなものがあるならば、それを受け取った側も、できないと思っていたが他ではやっているのであればできなくはないなど、結構重要にはなってくるのではないかと。抽象的な提案であれば、現状の枠組みでできそうできないとかいうところが決まってしまう。もし答申の段階で他地域の事例とかを既に組み込むのであれば、それも同時並行で準備はしておかなければいけないと思うが、スケジュールとしては、それを同時並行するのか、答申を出した後に作るのか。

会長

今回の協議会訪問で把握できた内容だけでも横展開の事例集自体はできると思う。ただ印刷費用などかかるため、実際に作成するのは、来年度になるものと思われる。それが可能になるように、中間答申で書き込んでおくというのがいいのではないかと。事例集の作成だけでなく、自慢大会、あるいは、今回やってみてすごくよかった、お互いがお互いのところを訪ねていくという横のつながりを促進する方策をぜひ来年度以降もやってほしいということも書き込んでおきたい。

委員

確かに、同時並行でしっかりしようとしたらすごく大変になる。

会長

来年取りまとめて印刷するだけであれば、早速成果が出てくるということになると思われる。

委員

交付金や施設の利用などの大事なところは、少し他都市の事例をポイントポイント入れてもいいのではないかとと思う。

会長

予算自体は来年度つくかたちであろうが、まちづくり基本条例の見直しに、もし仮に余裕ができたならば、1回か2回分、事例集に何を入れ込むかという検討に回せたらいい。

後は、中間答申の段階でするのかどちらのタイミングでいくのか分からないが、先ほど申し上げた委員からの感謝を込めたメッセージみたいなものを、一言皆さんご用意いただいておきたいと思っている。長くなくてもいいと思うが、振り返りで語っていただいたようなことを言っただけでもいいのではないかと。答申の時に添付する形で、こんな答申が出ましたと

いうことをまた事務局の方から各郷づくりの方にお渡しいただけると、信頼感を持っていただけるのではないかと。

委員

私にとっても8つの郷づくりを訪問させていただいたのは、本当に一郷づくりの会長としてすごく貴重な経験であった。市に意見として言うなら、こういう諮問と見直し以前に、代表者会議の場でも市の方から降りてくることについて審議するだけの形で、ほとんど郷づくりごとの情報交換というのがなかったため、もう少ししっかりとあれば、これだけ訪問していろんな問題点とかももう少し早く課題として上がり、解決できることもあったのではないかと感じた。訪問した先も、もっと何しに来たという感じで言われるのではないかと思っていたが、すごく期待度があったため、それに答える責任もあるのではないかと思っている。自分も委員ではあるが、どういう答申が出るのかが楽しみである。また市長も、各郷づくりの総会が開かれている場に来賓で来られた時も、この会議のことは、こういうことが始まっており、地域の郷づくり推進協議会がよりいいほうに向かうということでかなり明確に言われていた。私はあまりこういう経験がないが、答申にかなり強気のことを書いても、それは事務局のフィルターで落とされてしまうのか。

会長

私が会長を引き受ける時に、本気でやらせていただきたいと申し上げて了承をいただいている。もちろん事務局を困らせることはしたくないため、委員も納得できるならば交渉の余地はあると思う。ただ、原則は私どもがこうあるべきだということは答申として出す。私どもは諮問機関であり役所に命令できるような権限はない。何をどこまで受け止めてくれるかは、首長を含め行政側にかかっている。ただ、答申の中では、かなり踏み込んだことも書き込まなければいけない、それが責任だと思う。

先ほどの横のつながりの関係で補足しておきたい。自慢大会などで、各郷づくりがパワーポイントでどんな取り組みを始めたかといったものを発表していくと、各協議会の取り組みが協議会同士で共有できるだけでなく、その場に来た他の人々も共有できる。他方で、協議会の取り組みのレベルに大きな差がありすぎてしまうと、取り組めていないところがつらい思いをしてしまうこともある。もしかしたら今回行ったように、それぞれの郷づくりが個別に訪問するようなやり方から出発し、もう少し底上げを図ってから、自慢大会に似たものに展開していった方がいいかもしれない。ちなみに、自慢大会がある程度一巡してくると、自慢することがあまりなくなるため、実務者担当レベルの個別の部会ごとの交流の場に発展していくことが多い。

委員

いまだに言われていることは、「審議会に行っているけどどうなった」そればかり言われる。自分の郷づくりに来てもらったときも、皆さん市に対する要望や意見をたくさん言われていたが、それがどういうふうに反映されていくのか、今まで市からはいろんなアンケートを書いてくれと依頼がありアンケートを書いたが、それで終わって何も返ってきていない。だからあなた

は一生懸命行っているけれど、今度も同じで何も返ってこないのではないかと
と言われる。今回はきちんと答えが出ると思うと言っているが、それなら今
がどういう状態かというのを示して欲しいとは言われた。自分たちは
あの場で意見は言ったが、どのように進んでいるのか、どのように皆さんが
それを受け取ってくれたのか何にも返ってきていない。最後まで待っていれ
ばいいのか、そういうふうと言われるため、私もどうやって返そうかと考え
る。ここに書いてあるように地域と対話の場を持つ、これはどういう形であ
るのか、またあの繰り返しなのかというのが頭の中にあり、一部の郷づくり
の役員の中には、不信感が強すぎて、私がいくら説明してもなかなか理解し
ていただけない状態である。これに行ってどういう意味があるのか、それば
かりと言われる。

会長

不信感がある状態で何を言っても、結局信じられないということになって
しまうため対話は難しい。いただいた意見で受け止めるべきものは全て答申
にきちんと書き込む。それをどう行政側が受け止めてくれるかはともかく、
これまでと違うのは、そういった意見を明確にはっきりと書くということ。
はっきり書けば、やらないならやらない理由を明確にしなければいけないよ
うな状況となる。

私は事務局の皆さんを信頼しているし、福津市役所全体として決して悪く
ない。現場の声があり、それを踏まえた上できちんと理屈を通せば、もちろ
ん予算の制約と人の制約はあるが、その中で精一杯やったださるのではな
いかと私は信じているし、そのためにやっていると思っている。

不信感言葉だけでは絶対に払拭できない。行動を示し、何か結果を出し
ていかなければ信頼を回復することはできない。私どもとしてはやるべきこ
とを着実にやって、とりあえず小さなところからでも変化を作り出してい
く。たとえば、来年度からそういった各郷づくりの訪問事業みたいなものが
立ち上がったたりすれば、それだけでも大きな一つの変化かもしれない。もち
ろんそれで100%満足していただけないかもしれないが、今後も継続的に
変えていけばいいわけである。変えていけるということ自体が不信感を払拭
し、もう一回考えてみようという気持ちになってくださるのではないかと思
っている。

委員

ここまでいろいろ地域の話も聞いてきて、やはり交付金が一番みんな関心
のあるところだと思う。今ここで話していることも、我々の神興郷づくりで
も話しているが、やはりこういう会があることで、変わろうとしているのだ
ということはみんなとは話しており、それぞれで市と共働しながらやってい
かなければ、まちづくりはできないということは我々のところでもよく分か
っている。そういった意味で、こういう会議があるのであれば、変わろうと
することが前提でやっている話であるため、答申が出て何らかの動きがある
ことは、みなさん期待しているという思いで話を聞いている。

会長

交付金のあり方について、これだけはこの部分で現場の観点からも改めてどう思われるか。

委員

自由度についてもだが、やはり100万円の壁があると無駄遣いが発生する。そうではなく、次の事業に含めることができれば、もう少し大きな事業ができるような予算組みができるはずなのに、それができないというのがやはりネックである。大きな事業ができないというのが我々のところで考えているところである。

会長

そういったところはきちんと具体的に書き込まなければいけない。ぜひ事務局の方々には、これまで交付金に関して上がってきた具体的論点と、それを変えようとしたときに行政的に何がネックになるのか、そこを明示していただきたい。そうすれば私も含めてそういうネックを乗り越えている自治体の事例や、その自治体がどういった考え方でそれを乗り越えているのかといった点をお示しすることで、その壁を突破できるかもしれない。

どうしても突破していかなければいけないところは、かなり具体的に書くようにしたい。“○●という考え方で「できない」と考えているようであるが、○△という考え方をすればクリアできるのでぜひやっていただきたい”という風には書けば、それを覆すのは難しくなってくる。そこはぜひやらせていただきたいと思う。

性悪説と性善説があるが、行政というのは、「こんな風にまずいことに使われたらどうしよう」といった形で、どうしても性悪説的に考えがちである。しかし、基本的にそういうふうにあまり考えず、地域を信頼して制度設計をすべきだと思う。たとえば、繰り越しを認めないところも多いが、認めないと無駄に使ってしまう。きちんと計画があってやっている分には柔軟に認めるなどもあっていいと思う。一方で、会計的な透明性などは求める必要がある。要するに、基本は性善説で、「ただし透明性はきちんと担保してください」ということかなと思っている。

委員

地域の対話の場の時は、対話をしましようというよりも、前半はいろいろな話を聞いた結果として、こういうものが出てきましたといったフィードバックの場になればいいのではないかと思う。あと委員が言われていたことはすごく重要なことで、確かに色々ヒアリングしながら本当にそういうフィードバックがないとか、今まで何度も対応していたけど一切変化も生まれないといった、ある意味諦めのような不満のようなものはいろいろな地域でも感じた。それを爆発させる地域も当然あり、そういった不信感があるということから私たちは出発していかなければいけないというのは、意識として持っておくことはすごく重要だなと話を聞きながら思った。

その中でやはりそれぞれ担当の現場の職員の方は、かなり地域と関係性を作れているなと思っている。あなただから言うけどみたいな感じもあり、こ

この現場の職員の方は地域に出ているが、それでもやはり不信感が募っている構造とは一体何なのかというところは、これから我々が答申を検討するところの、なぜなのかというところをもっと掘り下げる必要があるのかなと思う。それは個々人の対応の問題というよりも、行政と地域の構造的な問題がそこにあるため、それを解きほぐすみたいなのはどうすればできるのかといったところも、何か根っここのところにつながっている問題ではないかというのは委員の話を聞いて改めてやるべきことというか、私たちがどういう地点にいるのかというのが確認できた。

会長

それではここまで議論してきたような内容で今後進めていきたい。今後のスケジュールについても、先ほど申し上げたような形になる。

先ほどの委員のコメントについて述べると、私も事務局の皆さんを見ていて、地域から信頼されているし、何が原因なのだろうと言われたら、恐らく2つあるのではないかと思います。

一つは、なかなか一義的にはこちらの事務局担当の皆さんだけでは変えられない部分がたくさんあるということ。特にお金の面を含めて、変えていくには、やはり我々が今回バックアップしていろいろな強い意見を出すことが必要だと思う。

もう一つは、いろんな思いやアイデアがあっても具体化していく手立てがなかったのではないかと思います。そこも今回私共がお手伝いしていくということで、一緒になって、一步一步変えていく。一步一步変わっていけば、信頼を一步一步回復できると考えているため、引き続きよろしくお願ひしたい。

次回は、6月9日ということになっている。先ほど申し上げた通り、まずソートをかけていただいたものを地域と委員に投げさせていただく。例えば8日に投げさせていただくとすると19日ぐらいまでに一旦締め切っていただき、さらにこの段階でもう一度地域から追加で上がってきたら、それについてまた1週間ほど取っていただき、私どもが出すというのが26日。このようなタイムスケジュール感で大丈夫か。

事務局

問題ない。

会長

それでは、連休を挟むため、8日の日くらいにソートしていただいたものを皆さんに送付していただく。それから19日頃を締め切りとしてご意見を賜りたい。同じタイミングで地域からも19日に追加で上がってくる可能性があるため、追加分は再び22日に送られてくる。それについては26日までにコメント等をいただければと思う。

委員

地域には追加まで受け付けるということか。

会長

おっしゃる通り。

委員

各地域は自分の地域の分だけを確認すればよいのか。

会長

前は地域名を落とすと言われていたがどうか。

事務局

そのような話もされていたが、この整理表自体は公開用の会議録から取っているため、必ずしも落とさないといけないのか迷いがある。地域名を外してこれを丸ごと8地域にチェックしてもらうようなイメージか。

会長

地域名を残していても支障はない。自分たちが言った意見が反映しているかどうかをきちんとチェックしていただくこと、追加の意見があればいただきたいということ、その2点が地域に投げる内容である。きちんと自分たちが言った意見が反映されているということならそれでいいし、足りないということなら追加で挙げていただく。19日までに追加分が上がってくるので、それが22日に追加で送られてくる。それをさらにその週の金曜日までにチェックし、これは確かに大事だよねというふうに考えられたら、それを言うていただくというような形で、入れこむべき論点が整理されてくるので、それを基にし、それぞれ4本柱プラスアルファで整理していただく。

委員

地域特徴や事業について地域に一度送り返す場合は、そういうところは必要ないということではいいか。もし追加であれば、4本柱の内容に絞るなど、それに関するものみにしたほうがいいのではないか。私がもし郷づくりの立場でもらった時に、またこの中で他にありますかというとなかなか難しい。

会長

4本柱プラスその他がいいかもしれない。4本柱プラスその他で一応このように整理させていただいているが、何か追加で言いたいことがあれば出していただきたいという形で意見をいただく。

事務局

まず協議会に確認を依頼する時は、4本柱に絞って聞くということで、その時は自分の地域で答えたものについて聞けばいいということでいいか。8地域分をまとめて聞くのではなく、各地域に自分の地域で答えたものを聞くという感じでいいか。

会長

どちらがよろしいか。

委員

あまり他地域を見てそちらに引っ張られ、こういうのは何回聞いてもどんどんまた新しいものが出てくると思うため、せっかく訪問してその場で意見としては聞いているため、各地域の中で聞いた問題点の中で、4本柱についてどうしても言い忘れたというのがあれば追加でいただくとした方がいいのではないかと。

会長

これだけ分厚いとそれだけでげんなりする。回答する側の作業量というか負担を考えた時も、自分たちの回答分だけで十分という考え方はあり得る。

委員

他の地域があるとそれに流されるところも結構出てきて、この意見もいいねとかいうことにもなってくるため、自分のところの分だけでいいのではないかと。それでもこれはもう少し言う必要があるとかいったことを、各郷づくりで判断してもらおう。

事務局

この整理表でいうとE列の分野の4本柱に絞ったところで聞くとして、D列の性質については細かく絞らずに全部聞くということによいか。

会長

まずこのように受け止めましたということで、聞いた内容一式を送る。その上で、「4本柱」とそれ以外で整理しているので、そこにきちんと意見が反映されているかどうかを確認していただいた上で、どうしても追加で言いたいことがあれば言っていたらいいという形で聞く。

事務局

聞かれ方として、協議会としては、順番は質問の順番に沿って確認する方が見やすいか。

会長

分野ごとにソートをかけておいた方が答えやすいのではないかと。回答表で何々について追加したいことがあればご記入くださいという感じで、1枚で出したらどうか。それを書いていただく際に、既にここに載っていることは書いていただく必要はないため、もしなにかあればという形で。

事務局

7月の対話の場をどういう場にするかは、次回の審議会で決めていくということによいか。

会長

問題ない。時間は13時から17時など長めにとっていただいた方がいい。あとは何人くらい参加していただくのか。各協議会からどのくらいを想定するか。事務局はワークショップに入るか。

委員

代表者会議だと、各郷づくり2名だが、あと1人追加して3人くらいはどうか。あとはどの部屋でどんなレイアウトを想定されているかも分からない。

会長

事務局が入るかどうかを考えなければいけない。事務局は入らないとなると34名、35名であるため、5人で7チームあるいは6チームになる。あとは、ワークショップができるような会場を用意する必要がある。

事務局

場所は公共施設を探してみようと思う。

会長

それでは、以上をもって本日の会議は終了とする。